

特集

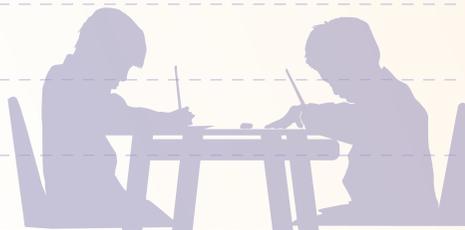
# 「統一合判」

中学入試レポート vol. **4**

## これが合格への カギになる！

### 2018年入試の変化のもとで、 チャンスを生かす受験校の選び方

夏休みを終えて9月以降、6年生が本格的な入試対策に取り組み始めてから、すでにひと月半。来年2月の入試本番まで残り3カ月半となった。保護者の皆さんも、いよいよ併願校を含めて、受験校を決めていく時期にさしかかっている。年ごとに多くなる入試要項変更によって、“激動”が恒常化してきた中学入試だが、来春2018年入試はどうなるのか。目立った動きを確かめてみるとともに、そこで生まれるチャンスを生かす、受験校の選び方を探ってみよう。



首都圏模試センター

## 大学入試と日本の教育が変わる節目に 私立中学校の入試が多様化！

毎年、多くの入試改革が行われることで目まぐるしく人気動向が変わってくる首都圏中学入試。例年、入試の直後から、次年度に向けての入試変更が次々と公表され、それぞれの学校の志望者数や難易度の変化、全体的な人気動向の変化などが、その翌年入試に関する話題となっていく。

そういう意味で、今春2017年入試の結果やその前後の目立った動向から、来春2018年の首都

圏中学入試の行方を占うとすれば、やはり注目すべきは「私立中入試の多様化」だ。

3年後の「2020年大学入試改革」を境に、大学入試が変わり、その先の社会で求められる力を育てるために、日本の教育全体が変わろうとしている。そのなかで、私立中高一貫校はいま、「21世紀型教育」に象徴される“最先端”の教育を導入し、あらためて公立学校の教育をリードする存在であろうとしている。

そのための新たな、中学入試における「アドミッション・ポリシー」を反映したものが、いま各校で

## 激動の2018年入試で“合格”を得るために、模試を上手に利用しよう！ ～「継続して受ける」ことで学力を育て、自信をつけることができる！～

首都圏模試センターの「小6統一合判」テストも、この10月9日で第4回を迎えた。6年生では12月までに残り2回、計6回の模試が行われるが、この機会を十分に活用して、来春2018年入試での“合格”のステップにしていきたい。こうした模試の上手な利用法は、何より「継続して受ける」ことだ。

それによって、

- ①毎回の成績の推移と、受験生のなかでの自分の位置を知り、受験勉強の成果（手ごたえ）を確かめることができる。
- ②志望校の最新の入試情報と人気動向を知り、ベストの受験（併願）作戦を組み立てていくことができる。
- ③毎回のテストで力試しができると同時に、中学入試の“合格”に直結する実戦的な学力を育てることができる。

といった、いくつものメリットが得られる。そのためにも、毎回のテストでは、成績表や結果判定などのアウトプット資料をよく確かめ、試験問題や答案には何度も目を通して、しっかりと「おさらい」しておく必要がある。

また、最近の小学生の皆さんは、まだまだこういった長時間のテストを緊張感のある状態で受けることに慣れていない。これまでもお通いの塾での内部テストは何度も受けてきたと思うが、会場が変わって、周囲に初めて顔をあわせる子どもたちがいるなかでの（＝入試本番のような）テストには、また違った緊張感がある。こうした雰囲気ですできるだけ早く慣れて、入試の本番でも感じるような、この緊張感



前回9月10日に行われた「統一合判模試」会場での説明会では、独自に開発した「地球思考コード」をもとに自校の教育を説明してくれた東京女子学園

も味方につけて、十分に力を発揮できるようになっておきたい。

保護者の皆さんは、毎回の成績や志望校判定に一喜一憂するのではなく、客観的に結果を受け止め、それをプラスに生かすための工夫をしてほしい。どのような結果（成績）であったとしても、その都度お子さんを励まし、学力的に成長するための材料にすることを心がけていただきたいのだ。

また、テスト会場での説明会など、最新の入試情報が聴ける機会には、必ず参加して説明を聴いておくべきだろう。

こうして親子で上手に模試を利用することができれば、継続して受けることがやがてお子さんの自信にもつながり、来たる2018年入試での“合格”への、力強いステップになるに違いない。



## 模試を受けることで、第一志望への課題と、ベストの併願作戦を組み立てるヒントを探ろう！

～「継続して受ける」ことで、合格へのチャンスが見えてくる！～

来春の中学入試に挑む6年生が、模試を受けることで得られるメリットは、前のページのコラムで述べた通りだ。さらにこれを、親の立場で生かすべきことにしぼって、以下にポイントをまとめてみよう。

### ●第1志望校との距離を測り、課題を見つける

毎回の合格判定の結果や成績をもとに、お子さんの第1志望校の合格の目安（＝入試予想難度）と、現時点での成績とを考え合わせて、その学校への合格可能性や、そこまでの距離を測り、残された時間で何を重要課題として、親子それぞれが何をすべきかを検討する。

同時に、11月以降の模試の結果が出る頃には「受験する学校を確定する」気持ちで、併願校選びのための情報収集や検討を進めておく。

### ●豊富な経験を生かしたアドバイスを聞く

毎回の模試の会場では、入試に関するアドバイスを伝える保護者向けの説明会（講演）が行われていることが多い。そこでは、中学入試に関する豊富な知識と、長く受験指導に関わってきた経験・事例をもつ講演者から、入試本番に向けての準備や、入試に挑むうえで役に立つ話を聞くことができる。

また、単なる情報だけではなく、わが子のサポートをするうえでの迷いや悩みをもつ保護者を励まし、力づけてくれるような話も聞ける。そうした機会には、積極的に足を運んで、入試に立ち向かう勇気や元気をもらうことができるといいだろう。

### ●志望動向の変化による予想・分析を生かす

毎回の合格判定では、その月の志望動向（志望者数や成績分布）などをもとに、入試予想が立てられ、それが翌月の合格判定に生かされる。

そうした志望者数の数字やデータは、個々の成績表（アウトプット）にも反映される。それぞれの志望校の動向は、個々の成績表を見ることでわかるが、もうひとつ、全体状況のなかで、それぞれの動向がどうなっていくかという予測・分析については、やはり専門家の意見を聞いたり、配布された詳細な資料を見ることが必要になる。それまでは気がつかなかった視点や、見落としていた情報を提供してくれることも多いはず。

この時期までに、おそらくほとんどの家庭では、



模試を受けるメリットは、多くの受験生のなかでの相対的な位置を知り、自分の目標への距離と課題を確かめることができることだ。

わが子の第1志望校、第2志望校については、詳細な情報を集めて、その学校についての理解を深めることだろう。しかし、第3志望以下の併願校については、まだ十分な情報収集ができていないとはいえないのではないだろうか。

そうした併願校選びに際しては、これまで持っていた知識や視点だけではなく、新たな知識や視点に気づかせてくれる専門家の意見が役に立つことが多い。たとえば、それまではわが子が午後入試を受験させることを考えていなかった保護者が、模試でのアドバイスを聞いたことによって、そのメリットや意味を知って、午後入試も併願に加えたことで、入試後になってみると「午後を受けておいてよかった…」と思えることも多いのだ。

### ●併願校を選ぶ多様な視点と最新情報を生かす

上に述べたことは、入試状況を知るためだけではなく、それぞれの学校を、もっとよく知るためにも大切な。

とくに併願校を選んでいく際には、ややもすると、古い情報や評判にとらわれて、選択の幅が狭くなりがちなこと事実。数年前までは、まだ成果の出ていなかった私学が、急速な変化・発展を遂げて、最近になって目覚ましい成果や実績を上げ、今後が大いに期待できる学校になっているケースは多い。

最新の学校情報によって、そうしたことに気づかせてくれるのも、模試を受けることで得られる大きなメリットといえることだろう。その意味では、会場での保護者向けの説明会（講演）や配布資料に、しっかりと耳を傾け、目を通していただくことが望ましいと強調しておきたい。

導入～新設されつつある「新タイプ入試」だと考えてよい。

新たな大学入試の出題に近いともいえる公立中高一貫校の「適性検査」に対応し、公立中高一貫校の志望者にとって受験しやすい「適性検査型入試」をはじめ、「総合型入試」、「合科型入試」、「論述型入試」「PISA型入試」など様々な名称と形式で、多くの私立中学校が、幅広く小学生に門戸を開いた。大学入試改革を早くもリードするような「思考力入試」の導入校も急速に増えている。

すでに今春2017年入試では、120校もの私立中学校が、こうした「適性検査型（思考力型・総合型・PISA型）入試」を実施し、来春2018年入試では、これを大きく上回る140～150校がこうした入試を導入すると見られる。

このほか、「英語（選択）入試」も今春2017年には95校で実施され、やはり来春2018年入試ではそれを20校ほど上回る「110～120校」が実施すると予想されている。

今春2017年入試の時期には、新聞、TVなど多くのマスコミが一斉に「私立中入試の多様化」にスポットをあて、今後の大学入試で問われる「思

考力」「判断力」「表現力」と「英語力」を問うアドミッション・ポリシーが、私立中入試にも反映されているという切り口で記事や番組報道をした。

そうしたマスコミ報道が多出したことの影響には、「2020年大学入試改革」や、文科省が推進する「アクティブラーニング導入」に象徴される日本の教育の変化に対して、小学校の保護者世代が敏感に反応している状況がある。それを契機に「中学入試が変わり始めた」ことが注目されたといえるだろう。

**変わる大学入試、4年目の当事者に  
あたる現小6生の保護者の意識変化**

しかし実際のところ、この1～2年でそうした新たな形態の入試を導入する私立中が続出しているとはいえ、現在も中学入試の主軸は、依然として「4科目（国・算・社・理）」か「2科目（国・算）」であることに変わりはない。先に述べた「私立中入試の多様化＝新たな形態の入試」は、すでに首都圏の私立中の過半数で実施されているとはいうものの、募集定員に占める比率では、私立中学校のトータルな入試回数のうち、まだ一部で導入されているに過ぎないことも事実だ。

それでも、こうした私立中学入試の新たな動きに対して、決して少なくない数の受験生と保護者が呼応し、それらの新たな入試形態が徐々に広く認知され、歓迎され始めた。

そうした「私立中入試の多様化」は、小学生と保護者から見れば「中学入試の間口が広がった」ということであり、多様な受験準備のスタイルを経てきた子どもたちが潜在的に持つ、多彩な能力や意欲、資質を評価し、私立中高一貫校の教育に「迎え入れて」くれようとするものであ

首都圏模試センターの「統一合判模試」の成績表にも「思考コード」の分類による「立体偏差値」が反映されている。





# 特集 **これが合格へのカギになる！** 2018年入試の変化のもとで、チャンスを生かす受験校の選び方

ることは間違いない。

こうした新たな入試が、子どもたちの多彩な才能や資質、将来伸びる可能性を見出し、そこに光を当ててくれるものであるならば、それは歓迎されるべきものだろう。

それは、3年後の2020年から「大学入試が変わり」、「日本の教育が変わる」節目を前に、早くもその方向性を先取りした私立中高一貫校の先見性によって「中学入試も変わる」という、大きなムーブメントの兆しでもある。

その意味でも、来春2018年入試に向けて、さらに「私立中入試の多様化」が進むという動きについては、従来の「4科目」「2科目」入試の難関校を志望する受験生と保護者も、やはり意識しておくべきだろう。

2024年に大学受験を迎える現在の小6のお子さんたちが、2020年以降の「新たな大学入試」の本格的な当事者になることは間違いない。だからこそ「中学～高校の6年間でどのような教

## 思考コードとは？

変換操作	全体関係	変容 3	配点 満点 18 得点 6 正答率 33.3	A3	配点 満点 7 得点 7 正答率 100	B3	配点 満点 7 得点 7 正答率 100	C3
複雑操作	カテゴリ	複雑 2	配点 満点 40 得点 22 正答率 55.0	35	配点 満点 7 得点 7 正答率 100	68	配点 満点 7 得点 7 正答率 100	C2
手順操作	単純関係	単純 1	配点 満点 40 得点 22 正答率 55.0	49	配点 満点 85 得点 25 正答率 29.4	48	配点 満点 85 得点 25 正答率 29.4	C1
(数)	(言語)			A	B	C		
			知識・理解思考			論理的思考		創造的思考
			知識・理解			応用・論理		批判・創造

※この成績（思考コード）の見方は、4ページ目にございます。

育を受け、どのような力を身につけるのか」が、わが子の将来にとってかつてないほど重要な意味を持つ時代になったのだ。

## 「統一合判」をはじめとした各模試や、多様な私立中入試で問われる力を「思考コード」で読み解く

ここで、昨年から首都圏模試センターの模試に導入され、今年度からは個々の受験生の成績

実際の入試や模試の問題（適性検査をはじめ、私立中の適性検査型・総合型入試、思考力テスト）で主に出题される問題も「思考コード」に当てはめて分類・分析することができる

### 最難関模試 ⇔ 御三家&難関校

変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	カテゴリ	複雑 2	A2	B2	C2
手順操作	単純関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A	B	C
			知識・理解思考	論理的思考	創造的思考
			知識・理解	応用・論理	批判・創造

### 思考力テスト

変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	カテゴリ	複雑 2	A2	B2	C2
手順操作	単純関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A	B	C
			知識・理解思考	論理的思考	創造的思考
			知識・理解	応用・論理	批判・創造

### 統一合判 ⇔ 中学受験スタンダード

変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	カテゴリ	複雑 2	A2	B2	C2
手順操作	単純関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A	B	C
			知識・理解思考	論理的思考	創造的思考
			知識・理解	応用・論理	批判・創造

### 公立一貫模試 ⇔ 適性検査型・総合型

変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	カテゴリ	複雑 2	A2	B2	C2
手順操作	単純関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A	B	C
			知識・理解思考	論理的思考	創造的思考
			知識・理解	応用・論理	批判・創造

「たとえばどんな問題？」……フранシスコ・ザビエルを題材にした「思考コード」の各領域の出題例

変換操作	全体関係	変容 3	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選び年代の古い順に並べなさい。	キリスト教の日本伝来は、当時の日本にどのような影響を及ぼしたのか、200字以内で説明しなさい。	もしあなたが、ザビエルのように知らない土地に行つて、その土地の人々に何かを広めようとする場合、どのようなことをしますが、600字以内で答えなさい。
複雑操作	カテゴリー	複雑 2	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選びなさい。	キリスト教を容認した大名を一人あげ、この大名が行ったこと、その目的を100字以内で説明しなさい。	もしあなたが、ザビエルだとしたら、布教のために何をしますか。具体的な根拠と共に400字以内で説明しなさい。
手順操作	単純関係	単純 1	(ザビエルの写真を見て)この人物の名前を答えなさい。	ザビエルが日本に来た目的は何ですか？50字以内で書きなさい。	もしあなたが、ザビエルの布教活動をサポートするとしたら、ザビエルに対してどのようなサポートをしますか。200字以内で説明しなさい。
(数)	(言語)		<b>A</b> 知識・理解思考 知識・理解	<b>B</b> 論理的思考 応用・論理	<b>C</b> 創造的思考 批判・創造



表にも出力(掲載)されるようになった「思考コード」(P19～22ページ)についてご紹介しておきたい。

この「思考コード」は、それぞれの模試で出題される個々の問題ごとに「問われる力」を、下の表のように分類し(作問の段階でそれぞれの問題が問う力を、この「思考コード」に基づ

いて設計し)、それぞれの領域(升目)の力ごとの正答率や偏差値を算出して、受験生一人ひとりの強みや弱点(課題)などの学力特性を表す形で成績表にも表現したものだ。そして首都圏模試センターではこれを、「立体偏差値」とも呼んでいる。

詳しい説明をするには誌面が足りないが、こ

こでは、例月の「統一合判模試」の問題や、難関私立中の(難易度の高い)入試問題、公立中高一貫校の「適性検査」問題、私立中の「思考力入試」で問われる範囲を示した図を20ページにご紹介しておこう。

比べてご覧いただくと、それぞれの入試(模試)タイプで問われる力の範囲が、かなり明確に異なっていることが

首都圏模試センターの「思考コード」で多様な中学入試の思考のレベルの特徴を知る

### 首都圏模試も偏差値以外の評価軸

変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	カテゴリー	複雑 2	A2	B2	C2
手順操作	単純関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		<b>A</b> 知識・理解思考 知識・理解	<b>B</b> 論理的思考 応用・論理	<b>C</b> 創造的思考 批判・創造



# 特集 これが合格へのカギになる！

2018年入試の変化のもとで、チャンスを生かす受験校の選び方

理解できるだろう。

たとえば、公立中高一貫校の「適性検査」や、私立中の「思考力入試」では、たて列の「A領域（＝知識・理解）」の力が問われるのではなく、「B領域（＝応用・論理）」や、学校によっては「C領域（＝批判・創造）」の力が問われることになる。

そこにチャレンジする受験生（受験生）としては、それぞれの入試に挑むための学習の仕方や学力観も、一般的な私立中入試とは異なるものとして理解しておくが良い。

この「思考コード（＝立体偏差値）」と、それぞれの領域に当てはまる出題を、多くの日本人が知っているフランシスコ・ザビエルを題材に例示したものが21ページの表だ。このような形でご覧いただくと、イメージもしやすくなることと思う。

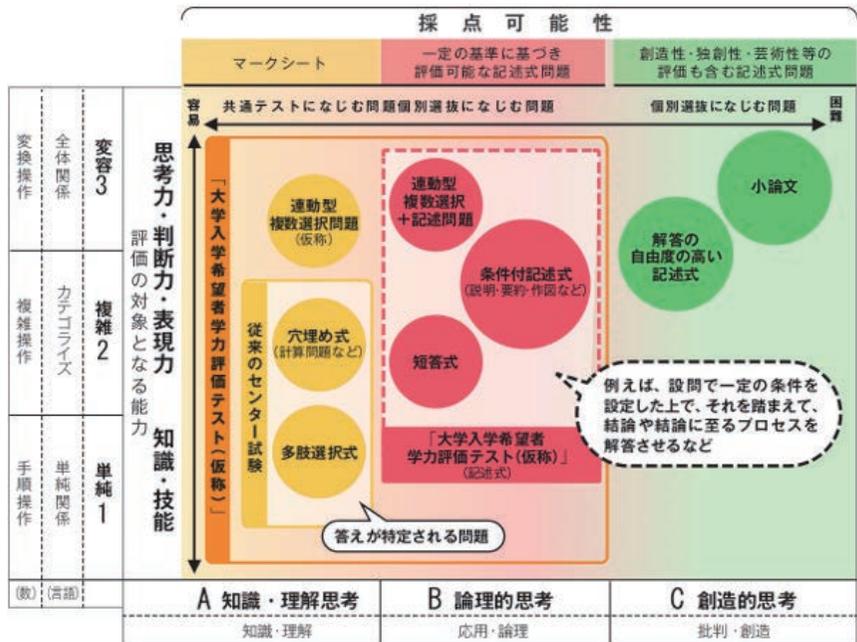
## 2020年以降の新たな大学入試にもつながる「適性検査」・「適性検査型」問題を解く力

さらに「2020年大学入試改革」を節目に大きく変わる今後の大学入試で問われる力を、この首都圏模試センターの「思考コード」にあてはめると（上の図）、文部科学省が示している図と、ぴったりと重なる。

つまり、公立中高一貫校の「適性検査」の出題や、私立中の「適性検査型入試」、さらには「思考力入試」をはじめとした多様なスタイルの入

### 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」と それらを評価する方法のイメージ例（たたき台）

平成 27年 12月 22日  
高大接続システム改革会議・配布資料



試が問う力は、すなわち、いまの小学生が4年目以降の当事者となる、今後の新たな大学入試で問われる力ということになる。

そういう意義も知っていただいたうえで、今後の受験勉強や日常の学習を進めていただくと、お子さんの7年後の大学入試と、その先の社会でも役立つ力を、この過程で育てていくことにつながるものが理解でき、今後の学習の励みになるのではないだろうか。



## 2018年入試に向けて、さらに多様化する私立中入試の人気動向

この2～3年の間に目立ってきた「私立中入試の多様化（＝新タイプ入試の導入）」は、来春2018年入試に向けてもさらに増加に拍車がかかっている。ここでは、来春入試から導入される、私学の新たなタイプの入試について、前回9月10日（日）に実施された、小6第3回「統一合判」での志望者数を抜粋してご紹介したい。

これらの新たな入試の新設・導入が公表されたのが大半は6～7月のため、この9月段階では、受験生の保護者にはまだ十分に認知されていない。そのため、これから12月～来年1月にかけて、徐々に「公立中高一貫校と併願する受験生」や、受験勉強を始めるのが遅かった「駆け込み受験生」を中心とする志望者が増え、2月の入試本番では、予想以上の志願者を集めるケースが多くなる。

したがって、この9月時点で、すでに2桁以上の志望者を集めている学校は、かなり人気が高まる可能性があると考えておきべきだろう。

### ● 共立女子の「英語インタラクティブ入試」が人気。プログラミングやグループワーク型入試も登場！

たとえば共立女子が新設する「英語インタラクティブ・トライアル入試」（2/3PM）は、この時点でかなり注目されている。右の表では一部しか紹介していないが、2016年～2017年にかけて新設された山脇学園、大妻中野、東京都立大学付属などの「英語（選択）入試」は、やはり認知度が高まったからか、9月時点で志願者を増やしている。

「適性検査型（公立一貫対応型）入試」とはまた違った形式で「思考力」を問うタイプの入試を導入する私立中も急速に増えている。宝仙学園理数インターが新設する「理数インター入試」、聖学院が新設する「難関思考力入試」などの志望動向にも大いに注目したい。大妻嵐山では「OR みらい力入試」のなかの選択で「プログラミング入試」を新設するなど、ユニークな入試新設の動きもある。「適性検査型入試」では、受験生が志望している公立中高一貫校の「適性検査」に合わせて、「適性検査Ⅲ」にあたる大型記述の問題や、なかには「グループワーク」を選択（聖セシリア女子の「B方式／グループワーク型読解・表現入試」→県立相模原中等教育学校の力試しになる）できるケースも増えていることに注目したい。



2016年の「英語入試」、2017年の「新思考力入試」に続き、来春2018年入試では「算数1科目入試」を新設する大妻中野。

2016～2018年入試で導入された（新設される）新タイプ入試  
9月度小6第3回「統一合判模試」志望者数（一部抜粋）

● = 男子校 / ● = 女子校 / ○ = 共学校

9月 月間 偏差値	学校(入試)名	性別	2018年 入試日	2017 9月度 志望者
69	市川(英語選択入試)	女	1/20	10
63	品川女子学院(算数1科午後)	女	2/1PM	103
62	共立女子2/3合科型入試	女	2/3	83
61	東京都市大学付属(グローバル)	男	2/2	21
59	共立女子2/3インタラクティブ	女	2/3PM	32
59	東京都市大等々力(思考・協働)	女	2/4	13
56	かえつ有明2/4・AL思考特待	男	2/4	9
56	かえつ有明2/4・AL思考特待	女	2/4	9
54	桜美林(総合学力評価)	男	2/1	18
53	大妻中野(算数入試)	女	2/3PM	26
52	山脇学園(英語入試A)	女	2/1	43
52	山脇学園(英語入試B)	女	2/2	34
51	八雲学園(未来発見入試)	男	2/5	8
51	聖園女学院(総合力)	女	2/1PM	19
50	大妻中野(新思考力入試)	女	2/1	18
50	八雲学園(未来発見入試)	女	2/5	20
50	桐光学園③B・T&M入試	女	2/4	12
49	桐光学園③B・英語資格入試	女	2/4	18
48	宝仙学園共学部①理数インター	男	2/1PM	11
48	宝仙学園共学部①理数インター	女	2/1PM	8
48	宝仙学園共学部(英語AL)	男	2/1PM	7
47	跡見2/4AM・I(思考力)	女	2/4	11
47	実践女子学園(思考・表現入試)	女	2/4	12
46	跡見2/4AM・I(英語)	女	2/4	6
45	桐朋女子(論理思考&発想力)	女	2/2	20
45	聖セシリア女子Bグループワーク	女	2/1PM	7
44	聖学院(思考力ものづくり)	男	2/2	9
44	聖学院(思考力+計算力)	男	2/2PM	5
44	聖ヨゼフ学園(総合型A)	女	2/1PM	4
44	大妻嵐山(みらいカブレゼン)	女	1/11PM	3
43	十文字(得意型特待)	女	2/4	29
43	女子聖学院(日本語表現力①)	女	2/2	7
43	日本大学豊山女子(思考力型①)	女	2/2PM	8
43	日本大学豊山女子(思考力型②)	女	2/11	19
43	和洋九段女子④グローバル	女	2/3PM	19
42	十文字(思考力型特待)	女	2/1	19
42	淑徳巣鴨(一般②未来力入試)	男	2/2	10
42	聖徳学園(AO入試)	男	2/1	13
42	和洋九段女子①グローバル	女	2/1	13
42	関東学院六浦B①	男	2/2	63
42	聖和学院A	女	2/1	15
42	聖和学院D	女	2/2PM	11
40	東京女子学園①思考力	女	2/1	6
38	神田学園(グローバル①)	女	2/1	10

※○印の八雲学園は2018年から共学校化（表中は女子の志願者）

※○印のかえつ有明、桐光学園は男女別学校